

Title	『ドイツ啓蒙主義研究』（1号～20号）掲載論文一覧
Author(s)	
Citation	ドイツ啓蒙主義研究. 2024, 21
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/97828">https://hdl.handle.net/11094/97828</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 『ドイツ啓蒙主義研究』（1号～20号）掲載論文一覧

### 第1号（2001年3月）

啓蒙とは何か

－『ベルリン月報』誌上の議論を中心に－（津田保夫）

C.F.ブレーマーの詩学をめぐって

－模倣説の復権と新たな想像力概念の模索－（福田覚）

ケンペル『日本誌』と編者ドーム

－「啓蒙」をめぐる議論を手がかりに－（中直一）

### 第2号（2002年3月）

「フリードリヒの世紀」と自由

－カント『啓蒙とは何か』とプロイセン一般ラント法－（前編）（斉藤渉）

ドイツ啓蒙主義における「人間の使命」の問題

－シュパルディングの『人間の使命』とその影響－（津田保夫）

社交術と「啓蒙」

－クニッゲ『人間交際術』にみられる処世と啓蒙の関係－（中直一）

クリスティアン・ヴォルフの心理学における「想像力」（福田覚）

### 第3号（2003年4月）

エルンスト・プラトナーの『医師と哲学者のための人間学』

－後期啓蒙主義における新しい人間観とその学問の試み－（津田保夫）

快感情の起源をめぐるJ.G.ズルツァーの考察

－アカデミー論文(1751/52)についての覚え書き－（福田覚）

「フリードリヒの世紀」と自由

－カント『啓蒙とは何か』とプロイセン一般ラント法－（後編）（斉藤渉）

### 第4号（2004年5月）

エルンスト・アントン・ニコライの想像力論について（福田覚）

シラーの『生理学の哲学』における心身問題

－その中間力構想と神経精気論の思想的背景－（津田保夫）

フリードリヒII世における公正の観念と司法の独立

－アルノルト訴訟事件に関するドームの報告より－（中直一）

#### 第5号 (2005年5月)

- ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(1) (中直一)
  - ービースターおよびニコライの文書よりー
- 「知識人共和国」は何語で話すか (斉藤渉)
  - ープロイセンの啓蒙主義とフランス系入植者ー (前編)
- ベルリンのズルツァー (福田覚)
  - ーその生涯と活動の振幅をめぐる素描ー

#### 第6号 (2006年5月)

- ズルツァーの美学事典の体系性をめぐって (福田覚)
  - ー事典形式と理論的な体系性についての予備考察ー
- ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(2) (中直一)
  - ーニコライおよびクラインの文書よりー
- 「知識人共和国」は何語で話すか (斉藤渉)
  - ープロイセンの啓蒙主義とフランス系入植者ー (後編)

#### 第7号 (2007年5月)

- ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(3) (中直一)
  - ーゲッキングおよびグローナウの文書よりー
- 陶冶の概念としての模倣 (福田覚)
  - ードイツ詩学史の再記述と模倣の問題圏の拡大のためにー
- 啓蒙主義者たちの大学廃止論 (斉藤渉)

#### 第8号 (2008年5月)

- ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(4) (中直一)
  - ーシュテルツェルおよびニコライ旧蔵の文書よりー
- 連想と連関の概念としての模倣 (福田覚)
  - ードイツ詩学史の再記述と模倣の問題圏の拡大のためにー
- 「現在を軽蔑する権利がない」 (多賀健太郎)
  - ー啓蒙とダンディズムー

#### 第9号 (2009年5月)

Logik als „Vernunftlehre“ (Sho Saito)

— Reimarus, Engel und W. v. Humboldt —

情動論から捉え返した詩学史記述の可能性(福田覚)

— 初期啓蒙主義の「修辞学的」側面のその後を追うために —

ビュッシング『週報』誌におけるケンペル『日本誌』出版報道(前編) (中直一)

#### 第10号 (2010年5月)

ビュッシング『週報』誌におけるケンペル『日本誌』出版報道(後編) (中直一)

フロイトの神経失調論に見る啓蒙と情動(福田 覚)

— 「文化的」性道徳と現代の神経失調」を中心に —

教育の公事化(斉藤 渉)

— フリードリヒ2世の文教政策についての覚書 —

#### 第11号 (2011年5月)

ドームによるケンペル『日本誌』の編集について(1) (中直一)

— 総説及び第1巻の分析(その1) —

ドイツ初期啓蒙主義の情動論をめぐって(福田覚)

— ヴォルフ、ウンツァー、マイアーが示す学際的な振幅 —

Zu den Quellen der phonetischen Umschrift

in Abel-Rémusat's *Éléments de la grammaire chinoise* (1822) (Sho Saito)

#### 第12号 (2012年5月)

ドームによるケンペル『日本誌』の編集について(2) (中直一)

— 第1巻の分析(その2) —

I. J. ピューラをめぐる記述課題の諸断面 (1) (福田覚)

— 敬虔主義の街、霊感的な詩作、崇高概念 —

Die Universität in dürftiger Zeit (Sho Saito)

### 第13号 (2013年5月)

ドームによるケンペル『日本誌』の編集について(3)(中直一)

— 第1巻の分析(その3) —

医学者 E.A.ニコライの「情念」と哲学者ズルツァーの「感情」(福田覚)

— ドイツ啓蒙主義詩学史の学際的理解の試み —

18世紀の文学外的フィクション(斉藤渉)

— パラテキストの分析 —

### 第14号 (2017年5月)

ユング＝シュティリングにおける信仰と創作(長谷川健一)

— 『ヨリンゲルとヨリンデの話』を手がかりに —

徳の教育(廣川智貴)

— Ch・F・ゲラート『スウェーデンのG伯爵夫人の生涯』 —

18世紀の自死をめぐる言説の再検討 I (吉田耕太郎)

J.E.シュレーゲル、ゴットシェートが接した「ソフォクレス」(福田覚)

— 受容の2つの局面から考える詩学史の物語論的再解釈 —

### 第15号 (2018年5月)

汎愛派の知られざる教育者J・K・ヴェツェル(廣川智貴)

嬰兒殺しをめぐる言説の再検討 I 論争の背景(吉田耕太郎)

レッシング『ミス・サラ・サンプソン』における父の規範と娘の葛藤(福田覚)

— 両価的感情の物語表現として見た悲劇の構図 —

### 第16号 (2019年5月)

道徳週誌『画家談論』における想像と模倣(福田覚)

— スイス派初期の作用詩学について —

ユング＝シュティリングの敬虔主義批判(長谷川健一)

— エルバーフェルト体験と『ヘンリヒ・シュティリングの家庭生活』 —

アルプスを見る詩人— ヘルダリーンとエーベル —(廣川智貴)

18世紀ドイツの旅行記・地理誌とその受容について(吉田耕太郎)

— 日本の盲人についての情報とその流布を例に —

### 第17号 (2020年7月)

文学論争におけるクロップシュトックの評価(福田覚)

— 文学論争の再考にむけて —

ヴェツェルとウィーン(廣川智貴)

— 『喜劇役者たち』を中心に —

神童と天才(吉田耕太郎)

— 18世紀における心的能力をめぐる議論をたどる —

### 第18号 (2021年5月)

文学論争以前のミルトンをめぐる遣り取り(福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(2) —

ユング＝シュティリングの「熱狂」評価(長谷川健一)

— 『テーオバルトあるいは熱狂者たち』(1784/85)を手がかりに —

ヴェツェルの教育論と『ロビンソン・クルーソー』(廣川智貴)

優しい父(吉田耕太郎)

— 親子関係から啓蒙を再考する —

### 第19号 (2022年3月)

『批判的論叢』24号におけるミルトン批評の言説(福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(3) —

対話小説への道 — J・J・エンゲルの理論と実践 — (廣川智貴)

野生児をめぐる18世紀の緒言説 1(吉田耕太郎)

— 言説の付置の確認 —

### 第20号 (2023年7月)

ユング＝シュティリングの「熱狂」評価(承前)(長谷川健一)

— 『テーオバルトあるいは熱狂者たち』(1784/85)

におけるテルステーゲン評価を手がかりに —

ミルトンから見て取る虚飾的表現と絵画的表現(福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(4) —

野生児をめぐる18世紀の緒言説 2(吉田耕太郎)

— 動物と人間の顔 —